

2007 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">演習 I</p>	<p>対象学科・学年 文学部日文3 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">高橋 圭一</p>
<p>授業テーマ 江戸の戯作に注釈を付ける</p>		
<p>授業の概要と目標 天明文学の華、黄表紙の代表的作品をいくつか選んで、全員で少しずつ分担しながら読み進めるという輪読（りんどく）形式で授業を行います。最初に黄表紙について概説し、その後発表の見本を示し、段々と参考書を紹介してゆきます。それらの参考書に眼を通した上で、注釈に使える本（工具書と言います）を図書館中から探し出してください。</p>		
<p>評価方法 年間 2～3 回の発表の内容、及びその準備に費やした手間隙（プリントを見れば一目瞭然です）によって評価します。出席も重視します。他の受講生の発表を聞かないような失礼な人に単位は出しません。</p>		
<p>テキスト 授業の最初に指定します。作品によって変更する場合があります。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書 授業中に随時紹介します。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、講義 草双紙（黄表紙は草双紙のある時期の作品群を指す名称です）の歴史。 2、 続き。 3、 続き。 4、講義 黄表紙の代表的作家とその作品。 5、 続き。 6、講義 注釈とはどういう行為か。（注釈は単純な作業などではありません） 7、模範発表・工具書紹介。 8、 続き。 9、受講生の発表、全員による質疑応答。その 1 『金々先生栄華夢』（キンキンセンセイエイガノユメ） 10、 " " " "（最初の作品は時間がかかります） 11、 " " " " 12、 " " " " 13、 " " " " 14、 " " " " 15 夏休み前に、歌舞伎のビデオを觀みましょう。歌舞伎の知識が、江戸文学の注釈には必須ということは、もうわかっているはずです。 16、受講生の発表、全員による質疑応答。その 2 『親敵信州腹鼓』（オヤノカタキウテヤハラツヅミ） 17、 " " " "（私の大好きな作品） 18、 " " " " 19、 " " " " 20、 " " " " 21、 " " " " 22、 " " " " その 3 『江戸生艶気樺焼』（エドウマレウワキノカバヤキ） 23、 " " " "（黄表紙の最高傑作） 24、 " " " " 25、 " " " " 26、 " " " " 27、 " " " " 28、 " " " " 29、 " " " " 30、 図書館で黄表紙のマイクロフィルムを見ましょう。驚くほどたくさんあります。 		